

令和7年度（第64回）農林水産祭

「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」（トップリーダー発表会）

【スマート農業技術とともに切り拓く地域の持続可能な農業】

《スケジュール》

13:30~16:00

（敬称略）

- | | | | | |
|---|---|----------|---|----------------|
| 1 | 開 | 会（13:30） | 公益財団法人 日本農林漁業振興会 常務理事 | 小栗 邦夫 |
| 2 | 挨 | 拶 | 農林水産省農林水産技術会議事務局研究推進課
技術政策情報分析官
山形県農林水産部長 | 島津 久樹
高橋 和博 |
| 3 | 選 | 賞審査報告 | 農林水産祭中央審査委員会農産・蚕糸分科会主査
（農業・食品産業技術総合研究機構副理事長） | 中谷 誠 |
| 4 | 業 | 績発表 | 令和7年度農産・蚕糸部門天皇杯受賞
株式会社おしの農場 代表取締役 | 押野 和幸 |

・・・休憩（14:30~14:40）・・・

- 5 ディスカッション（14:40）
（登壇者）
- ・コーディネーター
中谷 誠（3に同じ）
 - ・業績発表者
押野 和幸（4に同じ）
 - ・コメンテーター
宮武 恭一（農林水産祭中央審査委員会経営分科会主査
（農業・食品産業技術総合研究機構農業経営戦略部長））
中尾 克代（農林水産祭中央審査委員会経営分科会専門委員
（株式会社DX経営研究所代表取締役））
矢野 真二（山形県農林水産部県産米戦略推進課課長補佐）

（内容）

- ・意見交換、質疑応答
- ・総括

- 6 閉 会（16:00）

※スマート農業技術体験コーナーは、12:00からシンポジウム開催前及びシンポジウム終了後から16:30とします。（農研機構のご担当の指示をお守りください。）

令和8年 3月 11日:山形国際ホテル

令和7年度(第64回)農林水産祭

「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」

スマート農業技術とともに切り拓く地域の持続可能な農業



選賞審査報告

農林水産祭中央審査委員

農産・蚕糸分科会主査

中谷 誠
(農研機構)

【農林水産祭の趣旨】

国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善及び経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会の共催により昭和37年から実施。令和7年度は64回目。

【農林水産祭選賞部門】

- 農産・蚕糸部門
- 園芸部門
- 畜産部門
- 水産部門
- 林産部門
- 多角化経営部門
- むらづくり部門
- 女性の活躍

【授賞区分】



天皇杯



内閣総理大臣賞

日本農林漁業振興会
会長賞

【第63回農林水産祭選賞経過】

・**選賞対象**：令和6年7月～令和7年6月の農林水産祭参加表彰行事において農林水産大臣賞を受賞した453点の出品財のうち、農産・蚕糸部門の審査対象数63点

・**選考委員会**

＜農産・蚕糸分科会選考委員＞

中谷 誠（主査：農研機構）、藤井孝夫（京都先端科学大学）、
勝田真澄（元農研機構）

＜農産・蚕糸分科会専門委員＞

新田洋司（福島大学）、合志善隆（ヤンマーアグリ）、
荒木琢也（農研機構）、近藤始彦（名古屋大学）、
山田直弘（長野県農試）、伊藤美環子（農研機構）

＜経営分科会選考委員・専門委員＞

角田 毅（東北大学）、中尾克代（DX経営研究所）

・選賞経過

- 令和7年7月1日 農林水産祭中央審査委員会
おしの農場は全国豆類経営改善共励会
より出品
- // 7月10日 第1回農産・蚕糸分科会にて書類選考
現地調査候補の選定
 - // 8月5～18日 現地審査
 - // 9月1日 第2回農産・蚕糸分科会にて三賞選考
 - // 10月1日 農林水産祭中央審査委員会にて三賞決定

・天皇杯：株式会社おしの農場（山形県）



天皇杯授与式
（令和7年11
月23日、明治
神宮会館）

【令和6年度農産・蚕糸部門天皇杯受賞理由】

・受賞者の取組の経過と経営の現況

平成30年に「株式会社おしの農場」を設立し、その後も、耕作放棄地を無くしたいという思いから借り受けた農地の丁寧な管理を行ってきた。

その結果、令和7年時点で経営面積は130haに達し、大豆(25ha)と水稲(105ha)を生産している。水稲では乾田直播栽培を拡大、令和元年に生産を開始した大豆では、栽培面積を年々拡大しながら高収量・高品質を維持している。経営面積の拡大と将来の経営継承を見据え、スマート農業技術を積極的に導入している。



現地調査：R7年8月18日

・受賞者の特色

(1) 先駆的なスマート農業技術の導入

「ほ場生産管理システム」や「栽培管理支援システム」を導入し、作業者や農作物、ほ場状況をデータで見える化して管理。本システムを用いた取組は、スマート農業技術活用促進法に基づく「生産方式革新実施計画」の全国第1号認定となった。また、「ドローン」やトラクタの「自動操舵システム」を導入し、経験が少ない社員でも作業しやすい環境をつくるとともに、作業省力化を図っている。

(2) 女性の活躍

代表の長女と次女が同社に就職し、大豆や水稻の各作業だけでなく、事務経理やSNSでの発信など広報活動でも活躍している。スマート農業技術の導入によって女性でも作業しやすい環境となっている。

・受賞者の特色

(3) 農地の集積

集落農地の約3分の1を集積し、その大半は自社から2km圏内において効率的な作業を可能にしている。農地の貸主を第一の顧客と考えて管理していることから、地域からの信頼は厚く、農地の委託希望者は年々増えている。

(4) 実需者が求める「里のほほえみ」の栽培

実需者から固定需要のある大豆品種「里のほほえみ」を栽培し、令和4～6年産の平均単収は313kg/10aと県平均の2倍以上、令和6年産の1等比率は99.5%となるなど、高収量かつ高品質な生産を実現している。

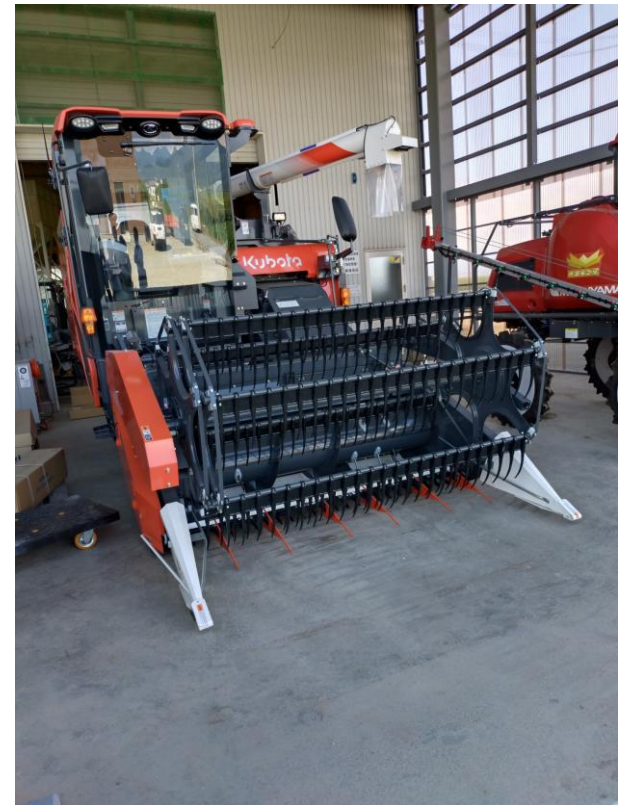


現地調査：R7年8月18日

・普及性と今後の展開方向

今後も離農者からの農地引き受けにより経営面積の拡大が見込まれることから、スマート農業技術をさらに活用し、省力的に作業できる大豆の栽培面積を拡大していく。

経営や栽培管理については次世代への事業承継を進めるとともに、コスト削減や収量の安定化、社員の技術平準化、人材育成にも力を入れていく



現地調査：R7年8月18日



スマート農業とともに切り拓く！ ～地域の持続可能な農業～



株式会社おしの農場

山形市天童市高掬北213（事務所：天童市長岡1752）

Copyright (C) 2022 Oshino Farm Inc. All Rights Reserved.

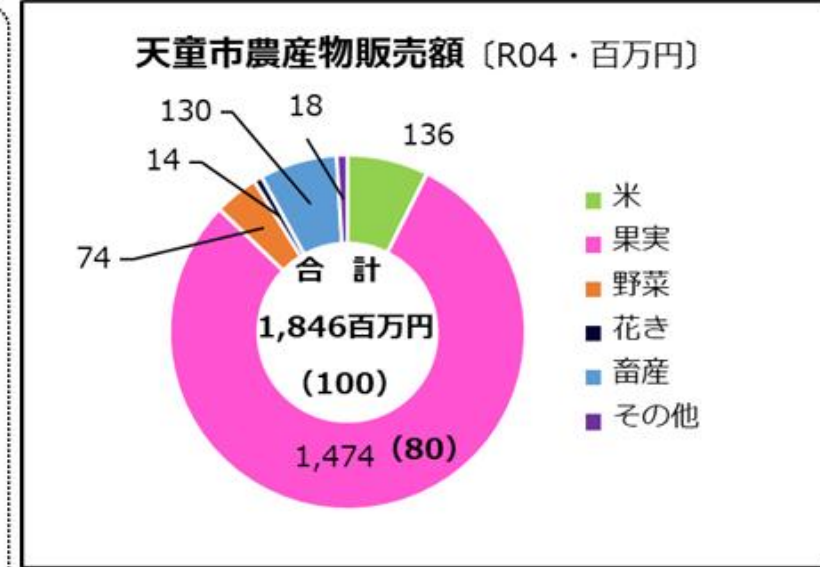
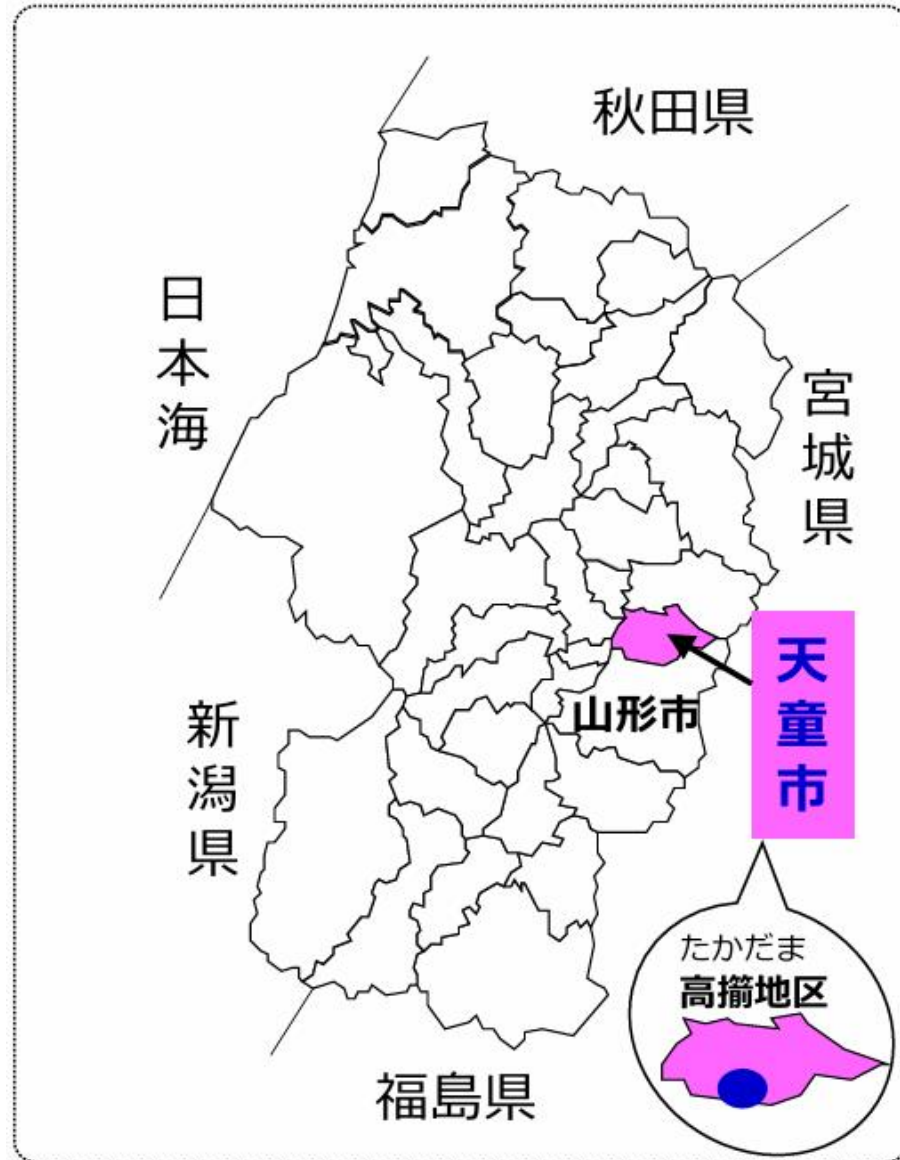
自己紹介



左：押野日菜子（姉）
➤就農7年目

右：押野寧々（妹）
➤就農5年目

ともに、山形県立農林大学校 卒業



天童市の 主な特産品

西洋ナシ
(全国第1位)



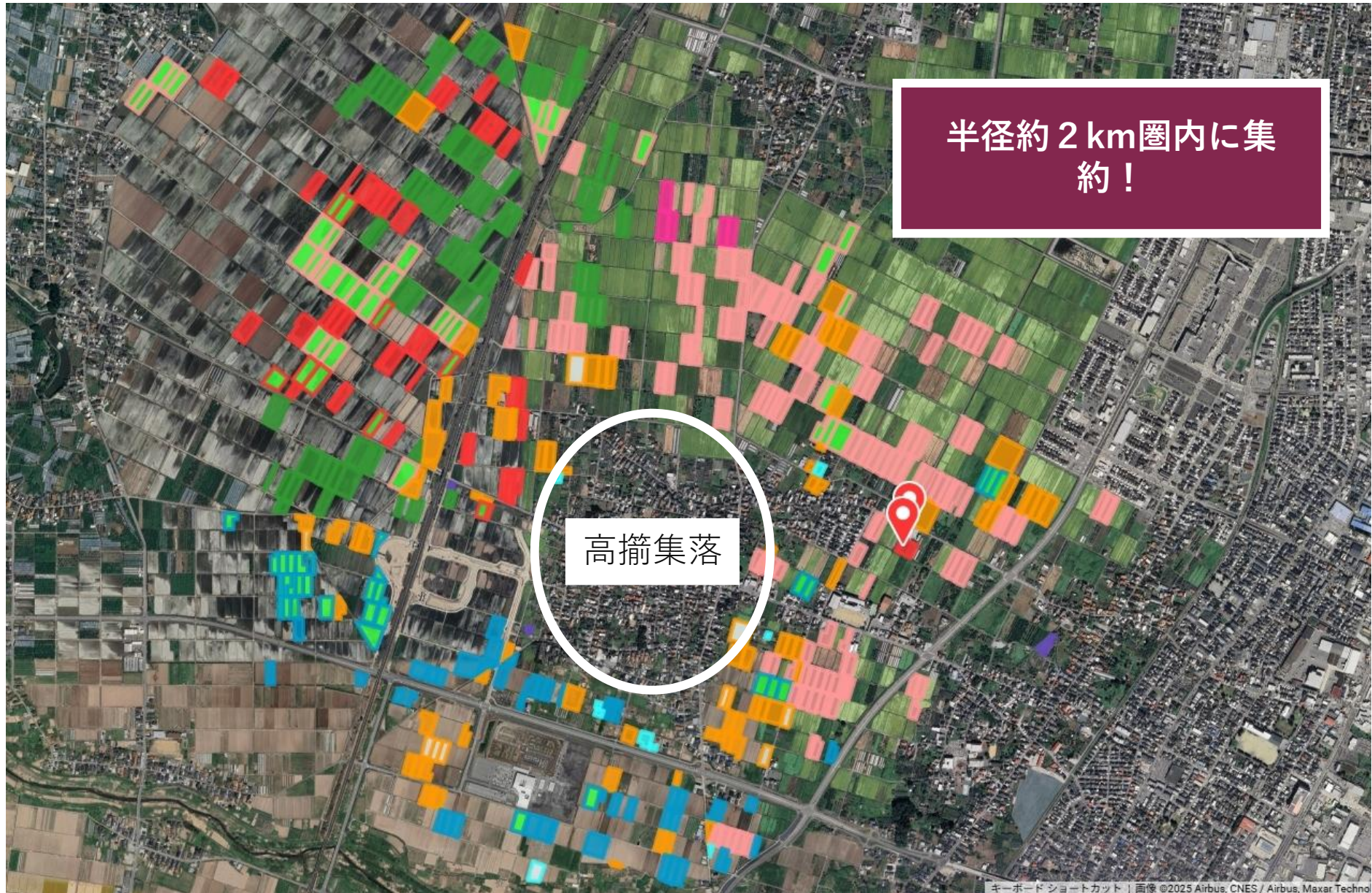
将棋駒
(全国第1位)

会社概要

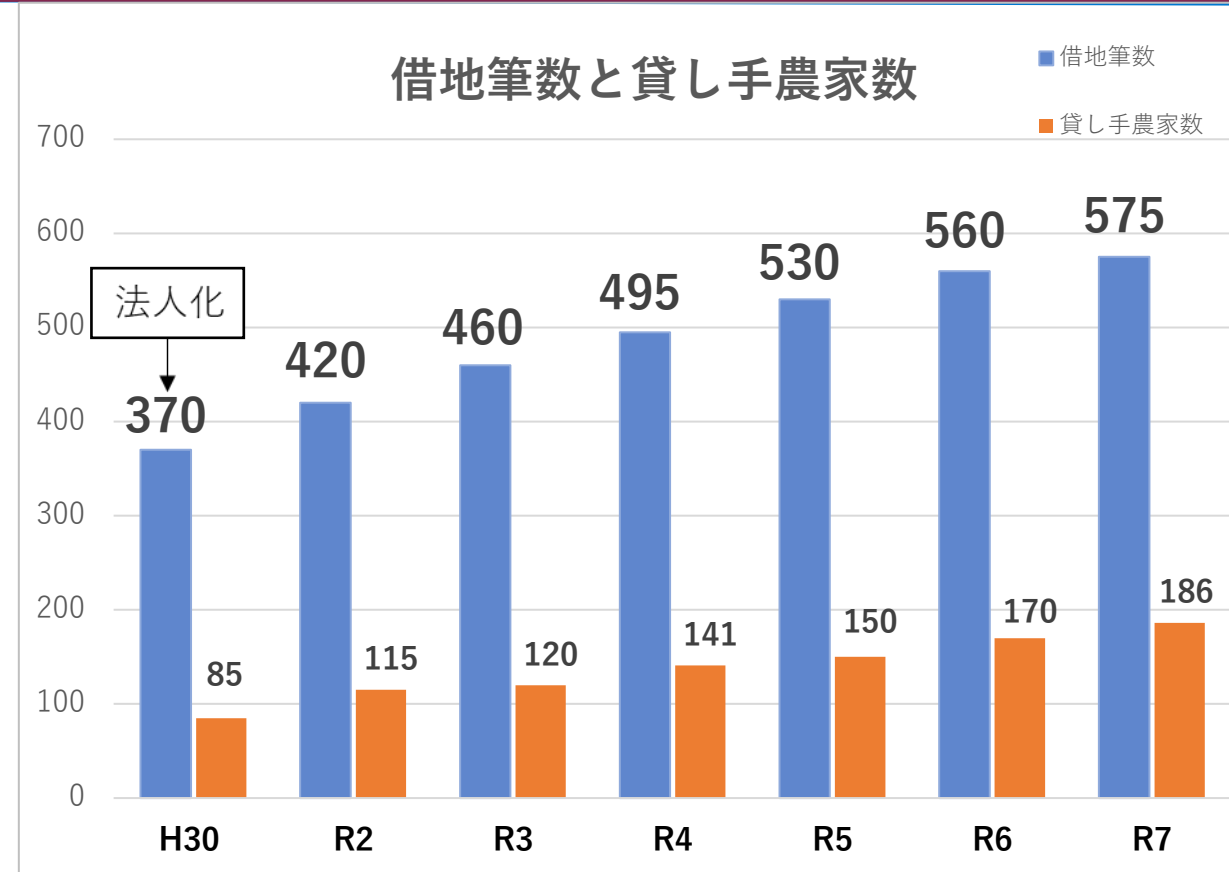
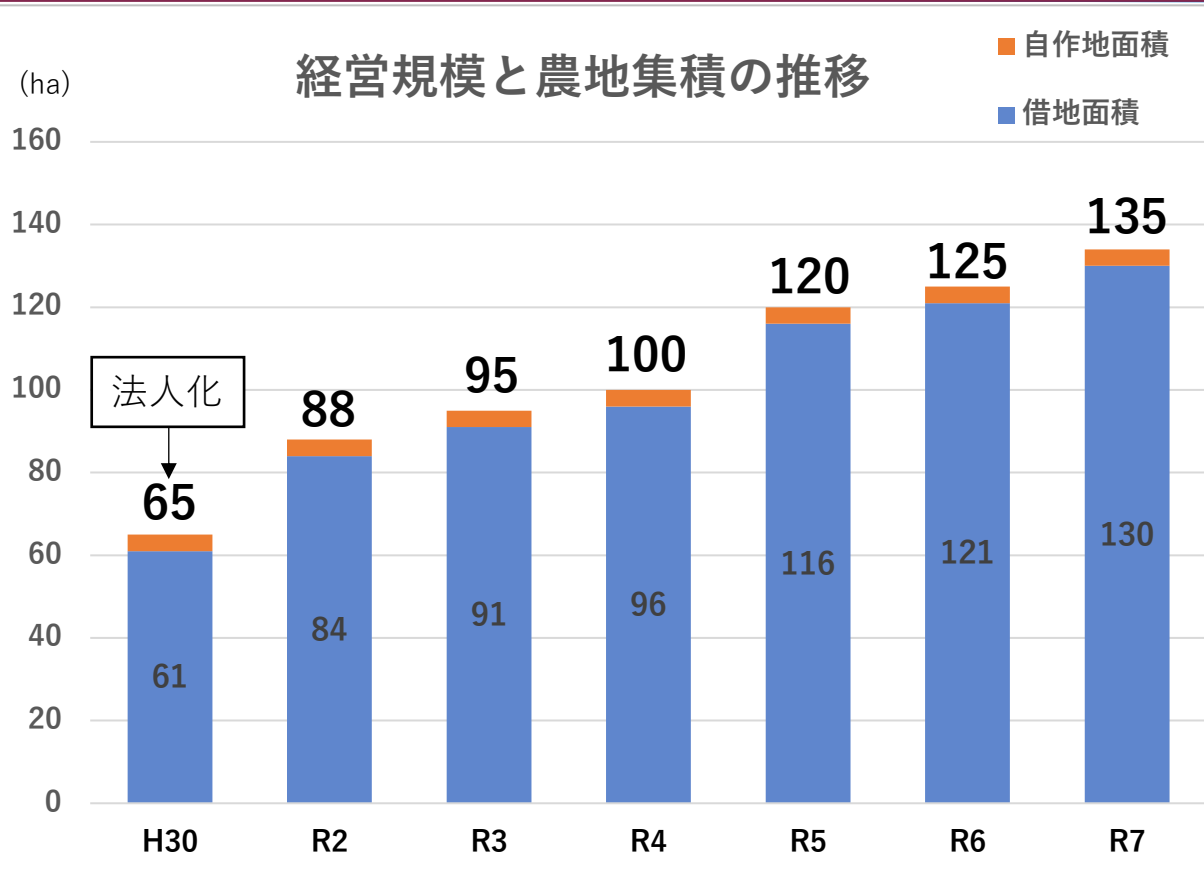
- 所在地：天童市高掬北213番地（事務所：天童市長岡1752）
- 設立年：平成30年3月
- 役員：3名（代表取締役 押野和幸）
- 社員：7名
- 面積：135ha（水稻110ha、大豆25ha）
- 米品種：つや姫、雪若丸、はえぬき、べこあおば



1 集落農地の集積を推進



1 集落農地の集積を推進



取組の結果

● 法人化から7年で…

面積が約2倍（135ha）に拡大

貸し手農家が地区の約1/3（170戸、借入560筆）

1 集落農地の集積を推進

お客様は誰？

お客様 = 農地を預けてくれる地域の農家

お客様に必要とされる会社になろう！

経営理念

「あなたの田んぼ、守ります」

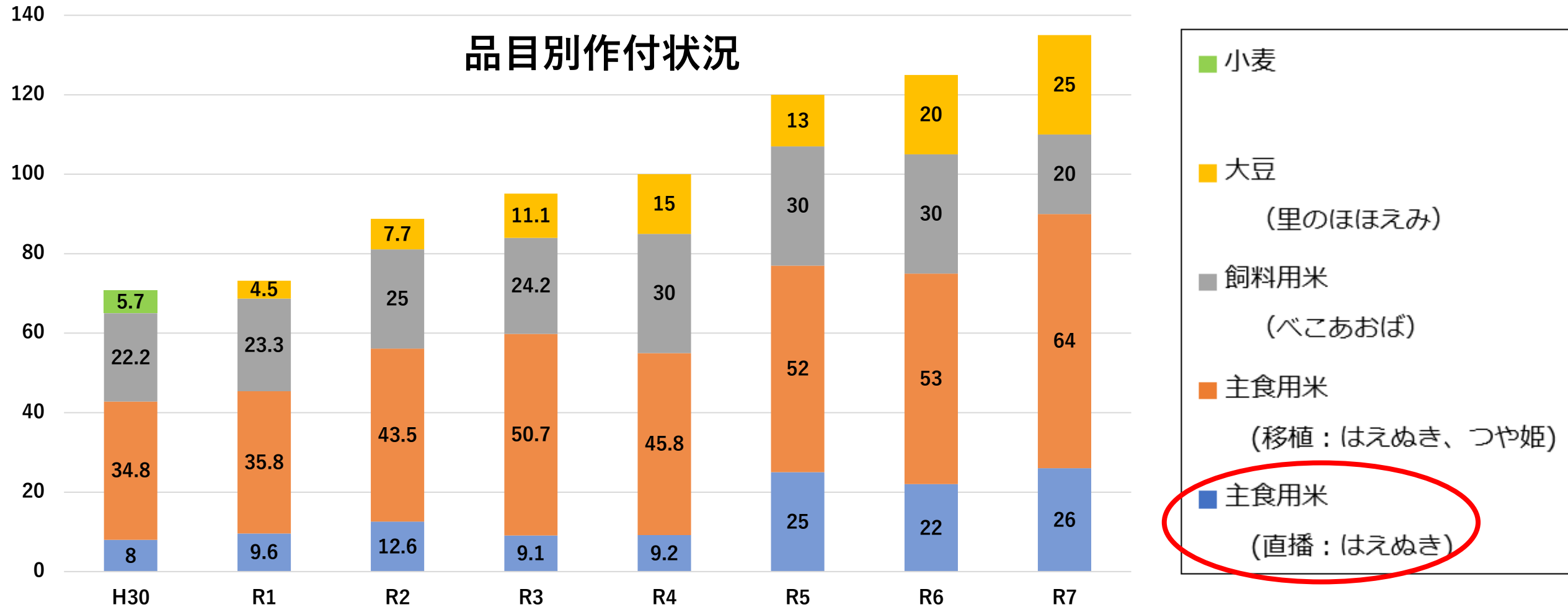
田んぼの管理でお困りの方へ
ていねいに、心を込めて
地域の皆さんのささえになれるよう
大切な田んぼを守ります。
どうぞ安心して、私たちにお任せください。



HPにも掲載

2 革新技术とスケールメリットによる省力・低コスト稲作の実現

品目別作付状況



作付の約2割を乾田直播栽培

省力化・コスト削減により規模拡大を推進

1 圃場生産管理システム（KSASの活用）



KSAS画面を確認しながらのミーティング風景

● 若い従業員の増加

- GPSで現在の位置を確認。入社1年目でも圃場位置を間違えずに作業ができる。
- リアルタイムで作業の進捗状況を把握し、
- 的確に作業指示ができる。

● 増え続ける圃場管理が大変

- 作業管理の見える化、作業データの蓄積
 （作業者、作業日、作業内容、使用機械、使用農薬・肥料の名称・使用量、作業時間が記録）



- **次代の役職員**の有益な**経営管理の指標**として活用

食味収量の向上に向けて、データを活用！

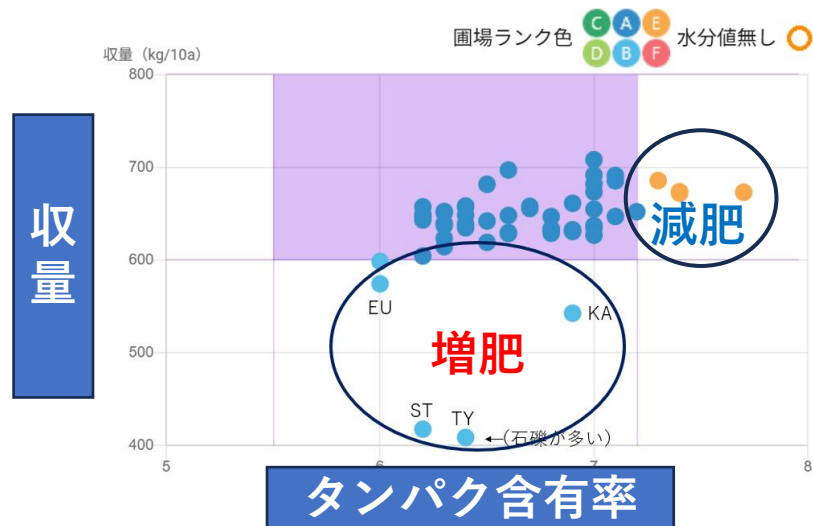
1

収量・食味メッシュマップセンサ付き
コンバインでの刈取り



2

データから改善が必要な圃場は
基肥施肥量を増減



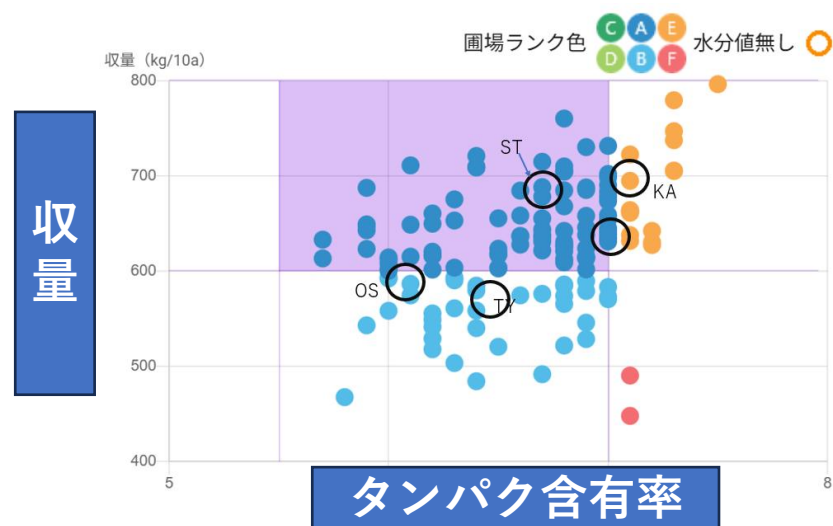
3

ほ場ごとの施肥量をKSASから田植え機
に読み込んで側条施肥



4

増減した圃場はいい感じに
今年度作付けを増やした圃場等で課題も



3 大規模稲作を支えるスマート農業技術

2 栽培管理支援システム (ザルビオフィールドマネージャーの活用)



可変施肥



● 各圃場に合わせた可変施肥

・衛星画像をもとにしたマップデータを田植え機やドローンに取り込み、可変施肥

生育ムラがほぼなくなり、圃場の一部分が倒伏する等がなくなった

● 稲・大豆の生育を見える化

・気温等で予測した生育ステージや、病気・害虫等の発生リスクを予測

若手社員の生育への意識UP↑
意思決定をサポートしてくれる

鈴木令次郎 BBCH 39 - 46.46 a - つや姫	14 月 7月	15 火 7月	16 水 7月	17 木 7月	18 金 7月	19 土 7月	20 日 7月	21 月 7月	今日 火 7月	23 水 7月
2025年の作付情報 稲	稲 つや姫	2025年5月18日 作付日	600 kg/10a 予想収量							
天気 気温 (°C)	28.9°C 21.5°C	29.8°C 24.4°C	34°C 24.7°C	33.2°C 25.2°C	34.8°C 23.7°C	35.8°C 23.6°C	36.1°C 24.4°C	36.7°C 24.1°C	36.7°C 24.7°C	35.6°C 25°C
タスクとメモ	BBCH 41 穂ばらみ前期									
生育ステージ	32	34	34	37	37	37	37	37	39	41

3 大規模稲作を支えるスマート農業技術

3 ドローンの導入

- オペレーターは5名（うち女性2名）
- 除草剤、防除、追肥（可変施肥）、稲わら腐熟剤の散布に活用



- **適期作業が可能に！**
- **女性でも面積をこなせる！**

3 大規模稲作を支えるスマート農業技術

4 自動操舵システムの導入

トラクターにGPS受信機・ハンドル・モニターを取付け、
ハンドルを自動で制御するシステム

● 作業負担の軽減

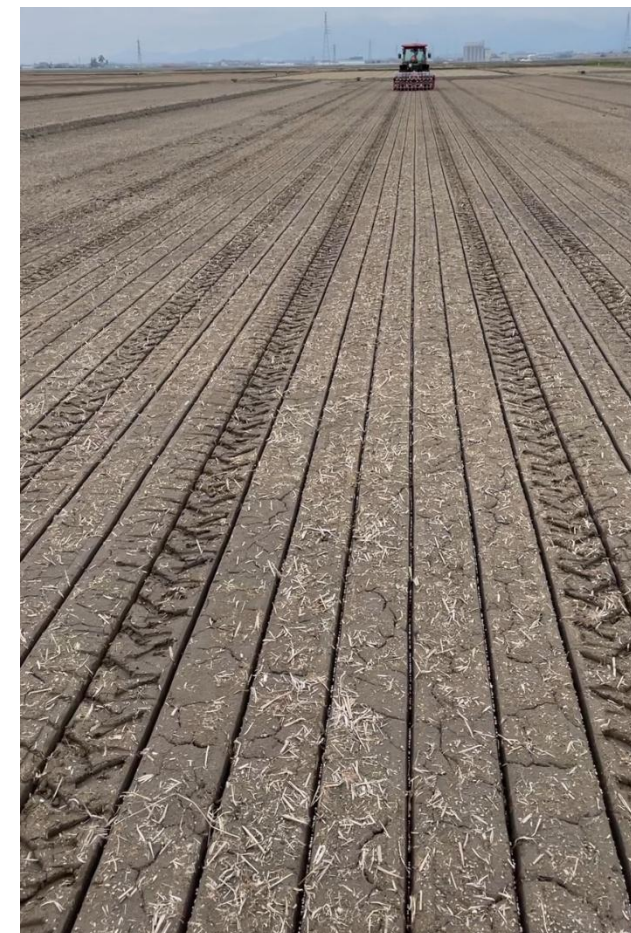
- ・ハンドル操作に集中する必要がない
- ・オペレーターへの疲労が軽減される

● 誰でも操作可能

- ・操縦が苦手・初心者でも真っ直ぐ作業可能

● 作業効率アップ

- ・設定した作業機の幅で作業
- ・作業跡が分かりづらい作業でも重複を防止



4 農業版“カイゼン”の導入

● 基本は“整理”“整頓”

- 機材や工具を探す時間を年間で積算すると、膨大な時間になっている。

“ネーム入りBOX”の機材棚保管

- 取り出しが簡単に



“工具ボード”

- 一目瞭然に



“レンチ”サイズ色分け

- 一気に取り出し



活動結果

例えば、1日10分でも… 1年間では3,650分（約60時間）のムダ改善¹²

4 農業版“カイゼン”の導入

● “作業習熟ボード”の導入

- 4色のマグネットで作業習熟度を表示！

▶ 各人のスキル向上に貢献

通称“作業習熟ボード”とは・・・

- 緑色
作業を完全にマスターして指導できるレベルの腕前
- 黄色
作業習得に取り組み、発展途上レベルの腕前
- 赤色
指示された作業が行える初期段階レベルの腕前
- 白色
初期段階レベルの腕前確保に向けて研修中

	押野	鈴木	寺岡	日菜子	寧々	櫻井	小池	齋藤	
バックホー	●	●	●				○		
畦塗	●	●	●	●	●	●	●		
ブラウ	●				○				
レベラー	●	●		●					
ブロードキャスター	●	●	●	●	●				
サブソイラ	●	●	●	●	●				
スタブルカルチ	●	●	●	●	●	●	●	●	
ロータリー	●	●	●	●	●	●	●	●	
代かき	●		●	●	●		●	●	
V溝播種機	●			●	●	●	●		
大豆播種機	●			●	●		●		
大豆中耕機	●		●	●	●				
田植機	●	●			●	●			
作溝機	●	●	●			●	●		
スライドモア	●	●	●	●					
ハイクリ	●			○	●				
ドローン	●			●	●		○	○	
コンバイン	●	●			●	●	●		
汎用コンバイン	●	●		●	●	●	●		
育苗管理	●				○				
フォークリフト	●	●	●	●	●	●	●	●	
RC管理	●			●	●			●	
水管理	●	●	●	●	●	●	●	○	
機械整備	●	●	●			●		●	

5 次世代に継ぐ後継者の育成と経営継承

● 経営の継承 ▶ 父65歳で経営をバトンタッチ

＜現在の役職員構成＞

氏名	押野和幸	押野由己	Sさん	Tさん	押野日菜子	押野寧々	Sさん	Kさん	Sさん
年齢	62歳	57歳	57歳	62歳	27歳	25歳	25歳	22歳	27歳
経験年数	44年	—	19年	8年	7年	5年	4年	2年	1年
経営主との続柄	代表取締役	取締役(妻)	従業員(義弟)	従業員	専務(長女)	従業員(次女)	従業員	従業員	従業員
主な部門	作業全般 経営管理	事務経理	稲作・大豆	稲作・大豆・ 機械整備	稲作・大豆・ 事務・広報	稲作・大豆	稲作・大豆	稲作・大豆	稲作・大豆・ 機械整備
労働保険・ 社会保険	加入								

● 経営の継承に向けた準備 ▶ スマート農業技術の積極的な導入

- ・ **KSAS**による圃場管理システムを導入して、**作業の見える化**を実践
- ・ **農業版“カイゼン”**活動の実践による**作業の効率化**を推進
- ・ **労務管理・会計事務**について、**母から**伝授

5 次世代に継ぐ後継者の育成と経営継承

● 女性の積極的な活動

長女（令和元年入社）

次女（令和3年入社）

※ とともに山形県立農林大学校在学中、無人ヘリ・ドローン・大型特殊運転免許・けん引免許を取得

➤ 水稻全般の作業管理、事務経理業務、広報事務

➤ 大豆を担当し、は種～収穫・調製の作業管理



女性だからできない仕事はほとんどなくなり、**どんな作業も男女の区別なく、分担して仕事に従事**

近隣の農業者の
「農業に対する意識の変化」



6 社員が働きやすい職場環境づくり

● 働きやすい環境整備

- 社員の増加に対応した厚生施設（休憩室、更衣室、トイレ等）を完備

令和2年に建設した厚生施設

「事務室兼作業準備室」



事務室兼作業準備室の外観



ミーティングコーナー



休憩室



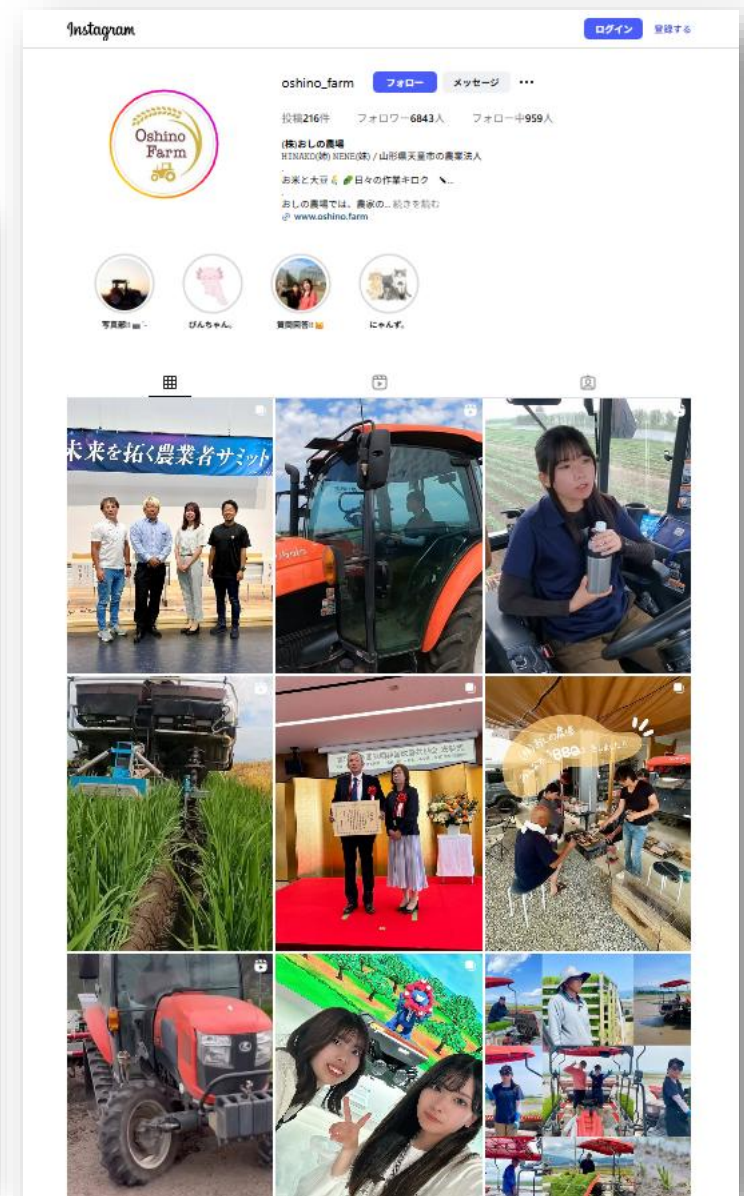
男女別更衣室



男女別トイレ

【 Instagramでの広報 】

- ・ 同じ農業者との情報交換ができる
- ・ 今の農業現場を知ってほしい
(スマート農業技術や機械等)
- ・ 若い世代の方々に向けて
農業に興味をもってもらいたい



経営理念である“**地域農業の守り手**”として、
高掬**集落**の**農業発展**のために事業を持続的に展開

貸主の意向に沿った
“**安心できる条件**での**賃貸契約**”
“**借りた水田の丹精込めた管理**”を
これからも続けていく